

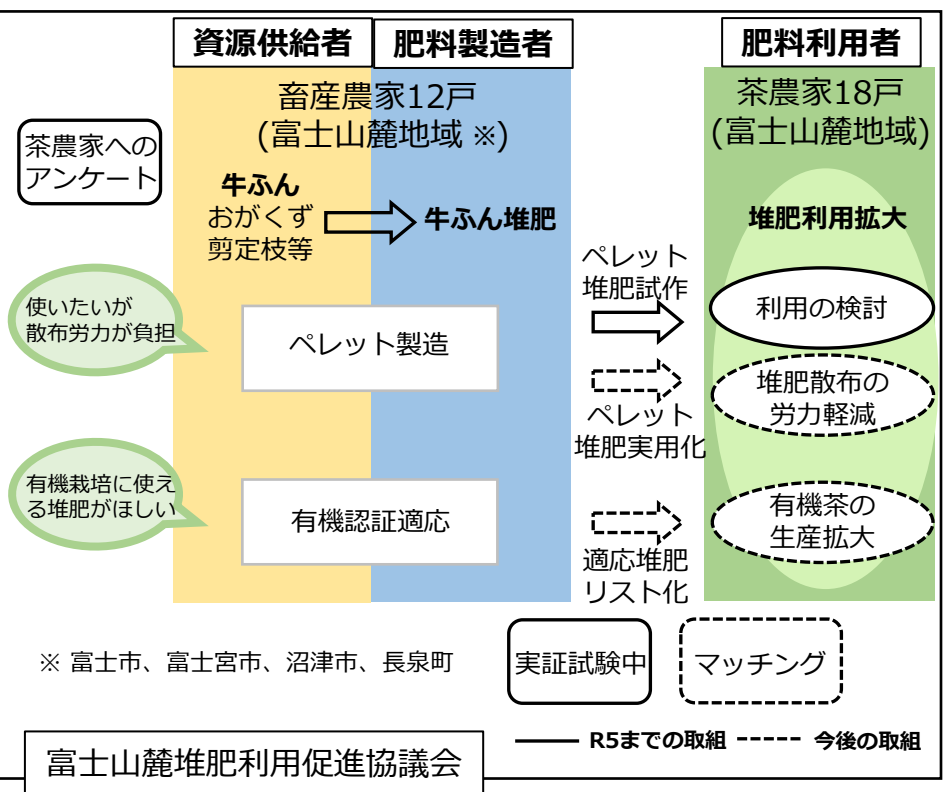
1-18 畜産堆肥の利用による持続的な茶生産に向けての実証的取組 (富士山麓堆肥利用促進協議会)

○ 富士山麓堆肥利用促進協議会は、地域の主要作物である茶の生産における堆肥の利用を促進するため、ペレット堆肥の試作や茶畑への堆肥散布の実証試験等を実施。

■国内資源の種類 ■肥料の種類・肥料名称

- ・牛ふん
- ・種類：特殊肥料（堆肥）
- 作物
- ・茶

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■取組の経緯・内容・成果（見込み）

- 取組の経緯
- ・富士山麓地域は酪農が盛んであり、経営体の規模拡大に伴い堆肥処理が大きな課題となっている。また、昨今の肥料価格の高騰は、茶農家の経営を圧迫していることから、茶農家の堆肥利用を促進することにより、畜産農家と茶農家、両者の課題解決を目指し、令和4年3月に協議会を設立。みどりの食料システム戦略緊急対策交付金を活用（R4-R6）し、実証試験等の活動を実施。
- 取組の内容
- ・茶農家の意向確認アンケートを実施し、6割から「今後畜産堆肥の利用を増やしたい」との回答があった一方で、堆肥散布労力や散布機導入コスト、有機認証への適応、施用効果解明等の課題が明らかになり、以下の取組を実施。
 - 堆肥散布の実演による効率的な散布方法の検討
 - 既存の肥料散布機の利用が可能なペレット堆肥の試作
 - 堆肥施用効果に係る実証試験
 - 堆肥利用研修会や課題解決のための検討会の開催
- 成果
- ・有機茶栽培マニュアルや堆肥利用促進のパンフレットを作成し、茶農家の理解が進み、堆肥散布機が導入された。
 - ・実証試験により、肥料の一部を堆肥に代替した栽培体系において、一番茶収量が確保されることが確認できた。

■今後の課題・取組

- 以下の取組により、地域における畜産堆肥の利用拡大及び有機茶栽培の面積拡大を図る。
- ①茶農家の求める堆肥への対応（有機認証適応、ペレット化等）
 - ②ペレット製造設備の導入や製造コストの検討
 - ③畜産農家と茶農家のマッチング
- 試作したペレット堆肥

茶畑への堆肥施用の様子